

# 同志社大学

2月9日 神・商・心理・グローバル地域文化学部 英語

## 解答

〔I〕

- A (X) 3 (Y) 4 (Z) 3  
B (a) 1 (b) 2 (c) 1 (d) 3 (e) 4  
(f) 4 (g) 2  
C (ア) 3 (イ) 2 (ウ) 1 (エ) 2 (オ) 4  
D (う) 5 (か) 4  
E (す) 1 (た) 2  
F 3, 5, 8(順不同)

〔II〕

- A (X) 2 (Y) 3  
B (a) 1 (b) 3 (c) 3 (d) 3 (e) 3  
(f) 4 (g) 3 (h) 2 (i) 4  
C (ア) 2 (イ) 1 (ウ) 4 (エ) 1  
D (い) 3 (か) 4  
E 3, 6, 8(順不同)  
F そのようなエネルギーを消費するものを発展させることに明確な進化的利点が存在していなければ、どんな動物もそのようなことをする余裕はないであろう。

〔III〕

- A (a) 5 (b) 1 (c) 7 (d) 3 (e) 10  
(f) 9 (g) 2 (h) 4

B Even if you see pictures of me taken in the past, you will not probably recognize me.

別解 Even if I show you pictures of me taken in the past, you will not probably recognize me.

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

増田塾 2019 解答速報ホームページ

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！

## 解 説

〔I〕

- A. (X) made up of ~ 「～で構成されている」というフレーズを思いつけば、選択肢 3 の of が適切である。
- (Y) make way for ~ 「～に道を譲る」「～に取って代わられる」というイディオムを問うている。よって、選択肢 4 の way が適切である。
- (Z) at the heart of ~ 「～の中心には」というフレーズを思いつけば、選択肢 3 の heart が適切である。なお、以下のように主語が新情報のため文尾へ倒置されていることにも注意。  
[M](At the heart of nature protection efforts) [V] is [S] a network [M](of ~ parks),
- C. (ア) 文脈から自然と農業は共存してきたが、自然が通常の場合は「敗北」することは明らかなので、選択肢 3 の losing the struggle 「その戦いに負ける」が適切である。
- D. 比較対象は、today と at any time since the rise of industry という、時間を表す 2 つの副詞(句)であることを理解し、「産業が誕生して以来のいかなる時代よりも、今日の方がイギリスの空気や水は綺麗である」という内容を文脈から読み取れば以下のような英文構成になるであろう。  
Air and water in Britain is [cleaner today than at any time since] the rise of industry.
- E. 文構造から空所に入れるべき適切な品詞を明らかにしながら回答していけば、自然に出来上がる程度の整序英作文であったので、落ち着いて対処できたかどうかが鍵である。  
(さ)に動詞が入るのは明らかなので選択肢 4 を入れる。続いて(し)には名詞が入ると思われるので parts か links が候補となる。続いて、選択肢には between があるため between A and B の形を作る。その際に、(し)は between が後ろに続くことを考えれば、links between A and B 「A と B のつながり」という流れを作りたい。よって、(し)に links を入れる。次に、between A and B の A の部分が”agriculture”で、B の部分に何か名詞を入れるとなると parts となるがその前に other をつけて other parts としてみると、between agriculture and other parts of the rural economy, such as tourism という句が出来上がる。
- F. 選択肢 2 は数値の読み取り能力が必要な問題。第 2 段落 4 文目には、中世において森は国土のおよそ 1/3 を占めていたが、今日では森は国土の 7% しかなく、現存するもの(現在の国土の 7% を占める森林)の 1/3 以下(つまり 2% 程度)が、昔からの森林地帯、広葉樹の森であることが書かれている。選択肢 2 の後半は「昔からの森林地帯、広葉樹の森は現在、国土のおよそ 7% を占める」とあるが、本文からではおよそ 2% になるので誤りである。数値の計算には細心の注意を払いたい。

## 〔Ⅱ〕

- A. (X) we are descended from the primates の the primates を whom に変えて The primates from (whom) we are descended ～としたものが本文である。
- (Y) 文意から先行詞を見極めて、“a superior race of hunters” であるとし、who を入れるものであるが、たとえ文意がはっきり理解できていなくても文法的にも考えられる問題である。選択肢 1 の what は名詞節を作るが、名詞節を置ける場所ではない。つまり、主語にも目的語にも補語にもならないということである。選択肢 2 の関係副詞 why の後ろは「完全文」の形であるべきだが、本文の空所の後ろは主語がない不完全文になっているので不可。また、選択肢 4 は所有格の関係代名詞 whose だが後ろに主語全体がないことから入りえない。よって選択肢 3 を選ぶ、ということも可能である。
- B. ほぼすべての問題で原義を知っていれば答えられそうだが、文脈から推測することも可能である。そのためには、内容一致問題への解答も踏まえてしっかり読み取り、理解することが肝要である。
- (a) strings は「糸」などの意味があるが、そこから選択肢 1 の sequences 「配列、つながり」といった意味に派生したものである。
- (d) impulses は「衝動、刺激」などの意味があり、選択肢 3 の signals 「信号、合図」と言い換えられることに気付く。
- (e) corresponding は本文では「匹敵している」などの意味で用いられているので、選択肢 3 の matching を選ばばよい。
- (i) rest には the rest of ～で「～の残り」といった意味がある。選択肢 4 の remainder がもっとも近い意味になる。
- D. 「霊長類の祖先による言語をあやつる脳の発達、我々が肉食になったのと同時に起きたかもしれないということは興味をそそる考えである」といった内容の英文にすると本文に合うので、  
It's a tantalizing thought that the development of brains (capable) (of) language in our primate ancestors (may) (have) (coincided) (with) our development into carnivores. とすれば良い。
- E. 1 第 1 段落および第 2 段落の内容と合わない。  
2 第 2 段落 3 文目の内容と合わない。  
3 第 3 段落の内容と一致する。  
4 第 4 段落の内容と合わない。  
5 第 4 段落最終文より、exclusively とまでは言えないので不適當である。  
6 第 5 段落 2 文目より本文の内容と一致する。  
7 第 6 段落の内容と合わない。  
8 最終段落 5 文目以降に書かれている内容と一致する。

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

増田塾 2019 解答速報ホームページ

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！